

# 第14回 周南市美術展2016 目録

会場 周南市美術博物館

前期 平面・立体 平成28年10月12日(水)～10月16日(日)

後期 書・写真 平成28年10月19日(水)～10月23日(日)

9時30分～17時

市美展大賞・準大賞作品は、前期・後期通じて展示します



市美展大賞 平面 <「祈り」一磨崖仏> 伊藤 聖士

主催 周南市

主管 周南市美術展運営委員会

後援 周南文化協会

協力 周南書道連盟 周南陶芸連盟 周南美術連盟 周南手工芸連盟 周南水墨画連盟



## 第14回周南市美術展2016 審査員紹介

### 平面の部

**菊屋 吉生**（美術史学者） 1954年生

立命館大学文学部史学科卒業（1978年）

山口県教育委員会文化課美術館準備室学芸員（1978年）、山口県立美術館学芸員（1979年）、第1回倫雅美術奨励賞受賞（1989年）、山口県メダル栄光文化賞受賞（1989年）山口県立美術館普及課長（1996年）、山口大学教育学部助教授（1997年）、山口大学教育学部教授（2006年）、山口大学国際総合科学部教授（2015年）

主な著書に、『昭和の美術第1巻～第6巻』（毎日新聞社 1990～1991年 共著）、『日本美術全集 23巻 近代の美術Ⅲ』（講談社 1992年 共著）、『日本美術館』（小学館 1997年 共著）、『別冊太陽 東山魁夷—日本人が最も愛した画家』（平凡社 2008年 監修・共著）他  
専門は、日本近代美術史

**原井 輝明**（宇部フロンティア大学短期大学部准教授・画家） 1965年生

東京藝術大学大学院博士課程後期単位取得後退学後、地元で活動拠点を移し創作活動を続ける傍ら、地元のアーティストらと交流・活動を目的に2005年よりFCAを結成し、空き店舗のシャッター壁画制作、無人駅でのアートプロジェクトなどに取り組む

エネルギー美術賞受賞（2003年）、第66回山口県芸術文化振興奨励賞受賞（2015年）

### 立体の部

**高木 茂登**（比治山大学短期大学部美術科教授） 1950年生

愛知県立芸術大学美術学部彫刻専攻卒業（1973年）

東京藝術大学大学院美術研究科保存修復技術専攻修了（1976年）

広島県立美術館勤務（1981年～）比治山大学短期大学部美術科勤務（1988年～）

新制作協会展、公募広島の美術などの公募展のほか、グループ展として、新制作広島グループ展、Sculptureヒロシマ、広島芸術学会展などに出品

企画展として、日米立体造形作家展（1999年）、ふれる・感じる・かたち展（2000年）、白山DNA展（2003年）、宇山DNA展（2011年）などに出品

八千代の丘美術館第9期入館作家（2010年）

著書に『ひろしま・水と緑と彫刻』、『南薫造の日記・関連書簡の研究』、論文『宮本瓦全の研究』『遠くの声—芥川永の彫刻』など

**大和 祐二**（陶芸家） 1946年生

立命館大学法学部卒業（1969年）

日本工芸会山口支部展朝日新聞社奨励賞受賞（1989年）、日本工芸会山口支部展朝日新聞社賞受賞、日本工芸会正会員となる（1990年）、田部美術館茶の湯の造形展優秀賞受賞（1995年）、日本工芸会山口支部展審査員特別賞受賞（1997年）、山口県芸術文化振興奨励賞受賞（1997年）、日本工芸会山口支部展朝日新聞社賞受賞（1999年）、日本工芸会山口支部展審査員賞受賞（2000年）、日本工芸会山口支部展NHK放送局賞受賞（2002年）、日本工芸会山口支部展支部長賞受賞（2004年）、日本工芸会山口支部展支部長賞受賞（2005年）、山口県文化功労賞受賞（2006年）、芸術文化功労山口県選奨受賞（2008年）、萩の陶芸家たち展優秀賞受賞（2013年）

萩焼400年パリ展出品（2000年）、日本伝統工芸展入選18回、日本陶芸展入選5回  
日本工芸会山口支部常任幹事

## 書の部

むらかみ がきん  
**村上 俄山**（書家） 1932年生

第59回中国文化賞受賞（2002年）

地域文化功労者文部科学大臣表彰（2006年）

朝日新聞現代書道二十人展出品（2012年、2013年、2014年）

現在、日展会員・日本書芸院顧問・読売書法会参事（中国展顧問）・書道笹波会会長・全国書美術振興会参事・広島県書美術振興会理事長・広島日展会副会長・樸俄会主宰

まつ た かくしん  
**松田 鶴信**（梅光学院大学特任准教授・書家） 1952年生

東京学芸大学教育学部卒業（1976年）

『現代書写字典』（木耳社 1986年 共著）、『書道技法辞典』（木耳社 1998年 共著）

山口県書道連盟理事

## 写真の部

たけしげ みつのり  
**竹重 満憲**（写真家） 1947年生

上智大学経済学部卒業（1971年）

日本写真家協会（J P S）会員（1992年入会）

出版取材 NHK大河ドラマ「毛利元就」（NHK、1997年）、井沢元彦「逆説の日本史」（小学館、2008年）、「岩国・柳井今昔写真帖」（郷土出版社、2009年）、よみがえる「熊本城」（碧水社、2008年）、「周南・下松・光今昔写真帖」（郷土出版社、2009年）、ディアゴスティーニ「週刊 日本の城」（2013年、2014年）、「周南・下松・光の昭和」（樹林舎、2014年）、サライ（小学館）

わかまつ ふみこ  
**若松 布美子**（写真家） 1973年生

九州産業大学大学院芸術研究科写真専攻卒業（1997年）、第2回国際写真ビエンナーレ企業賞受賞（1997年）、秋山写真工房フォトコンテスト大賞 秋山賞受賞（1999年）、西日本新聞「21世紀 鏡」連載（2001年）、第2回上野彦馬フォトコンテスト 大学賞受賞（2001年）、九州産業大学芸術学部写真学科講師（2006～2010年）、博多織プロモーション計画 教育功労賞受賞（2010年）

「消滅する時空」（2015年 ニコンプラザ新宿／ニコンプラザ大阪／ニコンサービスセンター福岡／ニコンプラザ名古屋）、「W-Select」（2015年 熊本デザイン専門学校）など個展、多数開催

平面	出品数115 (市美展大賞1・市美展準大賞1・市美展賞5・奨励賞22・入選60)		
No.	タイトル	氏名	賞
1	「祈り」-磨崖仏	伊藤 聖士	市美展大賞
2	紅色夜景	大川 たつみ	市美展準大賞
3	やままたやまトンガルやまやま	渡邊 俊行	市美展賞
4	主を待侘びる 秋の夕暮	秋本 町子	市美展賞
5	棚田の秋	橋本 美保子	市美展賞
6	刻-古都トリニダ (キューバ)	升 節子	市美展賞
7	Sunsetのみえる丘に住む	秋貞 啓子	市美展賞
8	夜明け	原田 勝造	奨励賞
9	「富士山 (夏)」	国光 俊夫	奨励賞
10	津軽の香	由本 正文	奨励賞
11	ただよう	津田 鈴子	奨励賞
12	須佐ホルンフェルスにて	山野井 三郎	奨励賞
13	ちく・ちく	佐藤 ミナエ	奨励賞
14	夏の瀬戸内	田辺 豊和	奨励賞
15	大樹淡装	山縣 道春	奨励賞
16	雪日	幸池 慶子	奨励賞
17	日常のむこう側	三浦 朋子	奨励賞
18	宇宙Ⅵ 第二の地球	吉田 京子	奨励賞
19	夢みる頃を過ぎて	玉井 みはる	奨励賞
20	太夫	小西 美佐江	奨励賞
21	晩夏	佐々木 祥子	奨励賞
22	里の海	永村 善輝	奨励賞
23	永遠の指定席	小田 妙美忠	奨励賞
24	ゴ-野祭	伊藤 加奈子	奨励賞
25	一期一会	徳原 貴美子	奨励賞
26	Time flyer	吉田 裕子	奨励賞
27	ひたむきな心	原田 富士子	奨励賞
28	見る者と見られる者	頼近 真知	奨励賞
29	脳みそ	小濱 都	奨励賞
30	クリスマスローズ	細山田 洋子	入選
31	風薫る丘の小さなお家	田邑 昌子	入選
32	SLやまぐち号	長藤 則男	入選
33	星にお願い	河村 祥子	入選
34	春の長田海岸	高橋 功夫	入選
35	スナップえんどう	藤井 剛	入選
36	ウクレレ	藤井 美彦	入選
37	ある丘の風景	山田 和子	入選
38	孟秋	吉村 佑一	入選
39	禅の教え	守政 恭輝	入選
40	あじさい	安澤 幸枝	入選
41	ゴンドラにゆられて (ヴェネツィア)	若林 奉之	入選
42	岩と流れと木洩れ日と	津山 義秀	入選
43	グラデーション	藤原 文代	入選
44	桜	磯野 正	入選
45	ばら苑	植田 弘子	入選
46	古里の桜 (高瀬)	松原 セツ子	入選
47	菊池溪谷 (震災前)	米本 豊弘	入選
48	徳地大原湖散策	山野井 三郎	入選
49	華	高橋 敬子	入選
50	スペイン広場	蔵田 省三	入選
51	ひまわり	竹野 利佐	入選
52	土壁	井生 祥吾	入選
53	「ふじばかま」に魅せられて...	橋野 一枝	入選

No.	タイトル	氏名	賞
54	祭りだ	三宅 恵子	入選
55	なまはげ太鼓	後藤 武司	入選
56	五重塔	兼安 正人	入選
57	あけぼの	神田 千代子	入選
58	つぶやきの薔薇	森口 須美恵	入選
59	しゃぼん玉	松浦 清子	入選
60	好奇心	松原 覚衛	入選
61	生月大橋の見える漁港	笹野 哲夫	入選
62	贖罪	杉本 由子	入選
63	白猫	尾上 かおり	入選
64	パンプキン	野村 ヨシ子	入選
65	静寂	橋本 恵子	入選
66	中津錦川	光弘 文子	入選
67	春よ来い	琴山 素行	入選
68	静寂	中島 悦子	入選
69	鉄扇	竹中 和之	入選
70	夢見るありさ	福谷 佳子	入選
71	次世代	林 邦子	入選
72	畢生（花時～誰そ彼）	舩富 恵美子	入選
73	玉蜀黍の花	重永 明江	入選
74	カーニバル	藤本 怜子	入選
75	葡萄の園	岡 明代	入選
76	天空の王宮	松浦 直美	入選
77	天までのぼれ	池田 郁子	入選
78	ハナノカタチ	玉野 淑子	入選
79	カンムリヅル	中股 恵子	入選
80	キャットキルト	河北 律子	入選
81	コスモスの冒険	大下 ゆり子	入選
82	杪權の森	戸村 佳子	入選
83	私にもちょうだい	秋貞 啓子	入選
84	時刻々（今年も満開）	清水 ミヨコ	入選
85	竹溪幽客図	合田 良子	入選
86	寂寥 向道湖	福永 邦子	入選
87	遊びは楽しい	高松 登美枝	入選
88	KAWASE	井上 まいこ	入選
89	スイート・メモリーズ	安本 恵子	入選

立体 出品数42（市美展準大賞1・市美展賞5・奨励賞8・入選19）			
No.	タイトル	氏名	賞
1	生命	楊井 朋子	市美展準大賞
2	激乱豪雨嵐紋円柱	渡邊 俊行	市美展賞
3	夕暮れの林	小川 操	市美展賞
4	蓮 -REN-	山根 公子	市美展賞
5	情熱	石光 順一	市美展賞
6	悠久のまなざし	角本 福美	市美展賞
7	Chiku Chiku Animals 2016	谷本 篤	奨励賞
8	瑠璃光寺五重塔	清木 則行	奨励賞
9	布目椿文花器	角屋敷 公子	奨励賞
10	網目模様氷裂柚子肌壺	藤井 輝昭	奨励賞
11	飛翔の魚	中村 達雄	奨励賞
12	駆けゆく先の世界	西尾 司	奨励賞
13	周南市立ける山小学校一年一組	小林 和子	奨励賞

No.	タイトル	氏名	賞
14	ハーモニー	楊井 朋子	奨励賞
15	明と暗	川中 和好	入選
16	メダルのなみだ	渡邊 修	入選
17	緋色掛分御本斑文花器	角屋敷 公子	入選
18	大内塗-夕映えの稜線・カッパドキア-	玉井 加代子	入選
19	煌夜	寺田 晃	入選
20	凍結結晶釉角錐壺	藤井 輝昭	入選
21	創造の魚	中村 達雄	入選
22	ジャンクアートプラモデル2016	西尾 司	入選
23	自然との調和	弘中 敬	入選
24	「ナナイロタマゴ1609」	國澤 啓	入選
25	緋彩線文角柱壺	土田 柁江	入選
26	野鳥の楽園	川中 建三	入選
27	能舞台	川中 建三	入選
28	如意輪観音	林 敏廣	入選
29	灘の暁光	藤井 滋人	入選
30	水指	畑尾 史郎	入選
31	曲線	畑尾 史郎	入選
32	青雲の夜	山本 恵美子	入選
33	翔る	山本 恵美子	入選

書 出品数44 (市美展準大賞1・市美展賞5・奨励賞8・入選21)			
No.	タイトル	氏名	賞
1	なぐさみ	河村 定子	市美展準大賞
2	影法師	高田 幸宏	市美展賞
3	茂古の秋のうた	山本 伸	市美展賞
4	劉基詩	田畑 美代子	市美展賞
5	水鉄砲	藤井 由希子	市美展賞
6	関戸本古今集節臨	市川 チヅ子	市美展賞
7	拾遺集	中津井 和子	奨励賞
8	王融	北栄 孝子	奨励賞
9	深山には	水野 千鶴	奨励賞
10	百人一首のうた	田中 美智恵	奨励賞
11	假虎威	江藤 マサ子	奨励賞
12	賞花釣魚	片山 玲子	奨励賞
13	麗澤契	植木 昌子	奨励賞
14	梅一輪 一輪ずつ	村田 美由紀	奨励賞
15	秋のうた3首	関口 正美	入選
16	阮籍詩	館林 文子	入選
17	新古今のうた	田本 啓子	入選
18	桃紅の言葉	吉本 美和子	入選
19	礼器碑	柴田 具子	入選
20	鷹羽狩行の句	河本 宏子	入選
21	寿	中村 まち子	入選
22	時雨そむる…	手嶋 孝子	入選
23	大象無形	田中 康彦	入選
24	貴風残香	下本 信子	入選
25	麦の穂をふるさとの夏と思い居る	貞久 俊子	入選
26	種田山頭火の句	前田 富子	入選
27	登臨近日	丸野 邦子	入選
28	穆以温	小林 純子	入選
29	王褒	飯田 邦子	入選

No.	タイトル	氏名	賞
30	王維詩	河本 明子	入選
31	陶淵明詩	杉本 晴美	入選
32	韋応物詩	森脇 萬雄	入選
33	山中歌	兼重 博子	入選
34	藏王堂	岩本 利彦	入選
35	薊の花	中田 和恵	入選

写真 出品数135 (市美展準大賞1・市美展賞5・奨励賞27・入選72)			
No.	タイトル	氏名	賞
1	学び舎	内山 和則	市美展準大賞
2	あの日から	内山 えいじ	市美展賞
3	夕暮れ時	山縣 清子	市美展賞
4	見送る	小川 照彦	市美展賞
5	純白の郷春を待つ	飯田 友一	市美展賞
6	手で伝わるもの	宮本 和幸	市美展賞
7	蒼い森	河村 志津代	奨励賞
8	不穩	兼重 要	奨励賞
9	やすらぎの空間	大木 洋子	奨励賞
10	惜春	大木 洋子	奨励賞
11	東京だよ…。	出口 幸男	奨励賞
12	優美	宮崎 紀与二	奨励賞
13	花すだれ	宮崎 紀与二	奨励賞
14	夏まつり	柳 信義	奨励賞
15	いい湯だな	小堀 弘	奨励賞
16	お花見	永尾 博美	奨励賞
17	青春	星野 亮介	奨励賞
18	白い道	川口 泰彦	奨励賞
19	いざなう	川口 泰彦	奨励賞
20	姉妹のハチ目	弘中 秀夫	奨励賞
21	生きるセミ	弘中 秀夫	奨励賞
22	復興へ出発進行!	田村 忠浩	奨励賞
23	じいちゃんみてみて	浜岡 邦雄	奨励賞
24	夏の夜祭り	西田 あや子	奨励賞
25	ナイス キャッチ	町田 弘	奨励賞
26	億万年からの輝き	山本 由里子	奨励賞
27	待望の一瞬	上村 大祐	奨励賞
28	干潟模様	橋本 聡	奨励賞
29	天空人	藤本 武昭	奨励賞
30	大山夕景	溝口 智司	奨励賞
31	暑くて困った	友森 久子	奨励賞
32	夏の賑わい	頓宮 弘志	奨励賞
33	彩りをそえて	秋本 ナオミ	奨励賞
34	明るいほうへ	河村 志津代	入選
35	周南の秋	檜野皮 毅	入選
36	こりゃ～美味しいのお～	松田 文夫	入選
37	馬く笑	松田 文夫	入選
38	孫たちと婆	大田 美和子	入選
39	首長族の娘たち	大田 美和子	入選
40	奉納	兼重 要	入選
41	少年	小川 照彦	入選
42	明日の幸せを祈る	飯田 友一	入選
43	天の川に抱かれる夜	河浜 聡文	入選



No.	タイトル	氏名	賞
44	八幡の天を翔る	河浜 聡文	入選
45	ネモフィラの丘	川田 君代	入選
46	紅葉	尾崎 万寿美	入選
47	おい、誰かきたぞ	森藤 茂雄	入選
48	キジも鳴かざば撮られまい	森藤 茂雄	入選
49	水鏡	手島 信之	入選
50	ハノイの朝 (その2)	長岡 信正	入選
51	右むけ右	出口 幸男	入選
52	語らい	山田 正明	入選
53	蜜を求めて	吉原 順子	入選
54	日光浴	吉原 順子	入選
55	秋の彩り	柳 美智子	入選
56	舞	柳 美智子	入選
57	蓐狩	河村 毅麿	入選
58	仁王様山門にお立ちに成る、前、今	河村 毅麿	入選
59	川辺は土俵に	大野 伸夫	入選
60	彼岸の振り返	大野 伸夫	入選
61	おはよう！行って来ます	吉光 佑二	入選
62	棚田の秋	吉光 佑二	入選
63	躍動	岩本 武夫	入選
64	街角	高松 美智子	入選
65	僕のすみか	福原 一輝	入選
66	艶やか	久原 靖史	入選
67	姫蛩の乱舞	久原 靖史	入選
68	山粧う	小堀 弘	入選
69	名残雪	永尾 博美	入選
70	ハレの日	手嶋 文雄	入選
71	すげ笠の花	手嶋 文雄	入選
72	明けの明星	立野 智	入選
73	青の流れ	立野 昌子	入選
74	絆	片山 一美	入選
75	激突	末永 浩也	入選
76	駆けあがれ、J1へ	末永 浩也	入選
77	シンクロファイブ	神田 裕子	入選
78	ヤーレーヨッサ！	神田 裕子	入選
79	朝なぎ	木村 直美	入選
80	月下	木村 直美	入選
81	跳べ！	中村 啓太郎	入選
82	ドカンと一発	山根 道夫	入選
83	しあわせいっぱい	多川 康男	入選
84	異空間に佇む	益本 誠二	入選
85	武蔵野の夏。	益本 誠二	入選
86	シリアの生ジュース売り	渡辺 秀子	入選
87	蘭	末永 良明	入選
88	我が道を行く	土本 崇	入選
89	河口の日暮れ	後藤田 稔	入選
90	男たちの夏祭り	西田 あや子	入選
91	小鷺の語らい	町田 敏子	入選
92	好奇心	重弘 佳子	入選
93	夕映え	山本 由里子	入選
94	防災	蔵澄 安野	入選
95	あなたの笑顔が一番	浅原 透	入選
96	永遠を望むもの	宮本 和幸	入選
97	帰巢	平岡 正夫	入選

No.	タイトル	氏名	賞
98	ワイキキアフター5	藤本 要一	入選
99	木漏れ日	藤本 要一	入選
100	空を泳ぐ	橋本 聡	入選
101	落葉の宴	藤本 武昭	入選
102	夕映え	友森 久子	入選
103	轟音	藤井 孝子	入選
104	徳山駅裏	頓宮 弘志	入選
105	輪廻転生想いは遙かかなたに	秋本 ナオミ	入選

## 《全体総括》

出品数は昨年、一昨年とほぼ変わらなかったが、いささか小ぶりな作品が増えたかな、という印象であった。一概に出品数が増えればいい、大きな作品が出ればいいというものでもないが、せっかくりっぱな美術館スペースがあるのだから、もっとスケールのある作品を思い切って出品してみるチャレンジ精神あふれる作品も期待したい。そうしたなかでも、このたびの受賞作品は、例年以上に大変充実した力作がそろっているといえる。

平面一大賞受賞作〈「祈り」一磨崖仏〉は、ぐっと重みをもった存在感あふれる作品であるが、準大賞受賞作〈紅色夜景〉は、ある種幻想的な感覚をもちつつ、伝統的な装飾も取り入れ、クラシカルな要素も組み込んだものである。立体一準大賞受賞作〈生命〉は、昨年の大賞受賞作と関連をもちつつ、さらに新たな方向と展開を感じさせる意欲作といえよう。書一準大賞受賞作〈なぐさみ〉は、文字のバランス、配置、大きさ、間隔等、かな文字の美しさを見事に体現した作品である。写真一準大賞受賞作〈学び舎〉は、なにげない田舎の学校の現実を、優しさにあふれた眼差しで4枚の写真に構成した佳品である。

4部門の大賞候補作のうち、3部門が昨年と同じ受賞者の作品であった。というように、実力ある作家が、連続して頑張っているということで、それ自体は大変喜ばしいことなのだが、これら受賞作に刺激されてさらに実力をもつ新たな作家たちが次から次へと出品、挑戦してくるような魅力に満ちた市美展となることを願っている。

(菊屋 吉生)

## 《各部門総括》

### 平面の部

出品数115点の中から最初に選外を25点程度選ぶことから始めることとなった。これは展示スペースの関係であったり、一定のレベルを維持するためには仕方ないことだと理解しているが、辛い作業であった。入選作が決まってからは、賞の付く作品30点程度、その中から更に順位を決めていった。こちらは気持ちは楽になったが、これまた頭を悩ませる作業であった。作者の視点の工夫、作品の完成度、技量等、全般的にととも高く、作品として味わえるものが大変多い様に見られた。例えば、〈「祈り」一磨崖仏〉は、キャンバスを裏返し、麻の質感を使い荒々しさと神聖さの表現に工夫がみられた。また、〈やままたやまトンガルやまやま〉は、どの様に描いたあるいは撮られたものか判らないが、垂れや滲みの物質としての魅力が表されていた。このように出品作の多くは、独自の工夫がされ、読み解く楽しさが散りばめられており、表現の充実ぶりを感じることができた。

(原井 輝明)

## 立体の部

何度か工芸の審査に参加したことがあります。

工芸に関しては周南のレベルの高さに驚いています。その理由を考察してみました。おそらく、優秀で熱心な指導者がおられるか、また、行政が文化の重要性を大切にされた結果、市民の芸術に対する関心が高まったのではないかと思います。

焼物に対しての感想を述べたいと思います。

自分の知っている技法、技術、装飾を見せたい一心で、一個の作品にこれらの全てを表現しています。これではお互いが見所を相殺し、見る側にとっては、一体何を見たらいいのか、何を訴えたいのかが解らず戸惑ってしまいます。これでは負の効果しか生まれません。

作者は伝えたいものは何か、見所は何なのか、そして、自分の想いを作品に単純に表現して欲しいものです。過剰な表現は必要ありません。引き算することで無駄を省き、自分の想いだけを明快に表現してください。そうすることで作品もすっきりし、一層、輝いてくるのではないのでしょうか。

(大和 祐二)

## 書の部

どんな公募展であれ、より多くの出品を願う。昨年も審査に参加させて貰ったが、今年も全く同数の44点である。しかも、準大賞を獲得された人物も同じであったことは、文化都市周南としては少し淋しさを感じた。

書部門には、漢字・かな・近代詩文・篆刻・刻字と五つの種類があり、部門によって多少の差がある。また作品についても、力作もあるが、一人よがりの幼稚な作もあった。

全作品を部門別に並べて、審査が始まる。どんな作がはずされたのか、例をあげると、乱雑なもの、幼稚なもの、弱々しく見える、全体のバランスが悪い作などがあげられる。

次に、賞の候補となるものを選出したが、選ばれた作は、平生の勉強のあとがはっきりみえる。線の練度、作品としてのまとまり、加えて書いた人の気力の充実などが一つの基準となった。

惜しくも賞をのがした人は、必ず展覧会場へ出かけて、他の人の作品をしっかりとみて、私たちの勉強の方法である、古典をしっかりと臨書し、「書は線の芸術である」ということを胸に精進して下さい。きっと、あなたにも賞が取れる時がやってきます。来年こそ頑張ってください。

(村上 俄山)

## 写真の部

日常の中から見いだした小さな奇跡、またはお祭りなどのイベントから激しくわき出す特別な空気、自然の織り成す厳しさや美しさに気づきカメラを向けて写真として創りあげていく。その「気づき」や「見つける」、そして「表現することを楽しむ」ことの面白さを応募作品を見ながら充分に感じる事ができました。

最近、携帯電話にもカメラ機能は当たり前のようにつき、インターネットでも簡単に写真を見ることができるようになりました。そのせいか、光の使い方や被写体の見せ方が上手い作品が多くなったと思います。そのなかで、作者独自の被写体との関わりを強く感じる作品が上位にあがりました。表現として大きなテーマで人間の理念や本質を強く揺さぶるものもあれば、心の奥に既に存在するものを柔らかく深く思い出させるものもあります。素晴らしい技術の上に見えないものを伝える難しさも写真の魅力の一つだと思います。

(若松 布美子)

## 《作品講評》

市美展大賞 平面

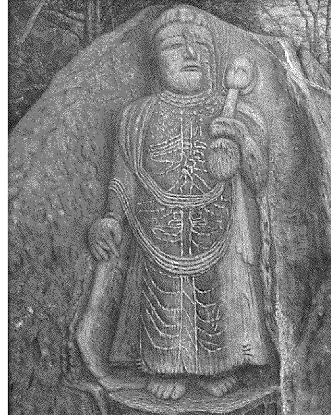
〈「祈り」—磨崖仏〉

伊藤 聖士

昨年の平面部門の最高賞(準大賞)は、軽やかでモダンな作風の作品であったが、今年はどうって変わって、ぐっと重みのあるものとなった。そして大接戦の末、このたびの大賞を受賞することとなった。一見、普通の路傍にある何気ない石仏を写し取ったものに見える作品であるが、よく見るとかなり執拗で入念な描きこみのある作品なのだ。しかも裏キャンバスを使用しているのか、ゴワゴワとした独特の質感をもったマチエール(絵肌)が特徴的である。

色彩を塗り重ねながらも、けして濁った色合いとはなっていない、むしろ深みのある色彩となっていて、そこに描かれる物の存在感が象徴されている。この存在感こそが、描く磨崖仏に託される鎮魂の想いや慈悲や救済の願いを際立たせつつ、人間の情念や感情までもその奥に深く沈めた表現へと、この作品を高めているのだろう。

(菊屋 吉生)



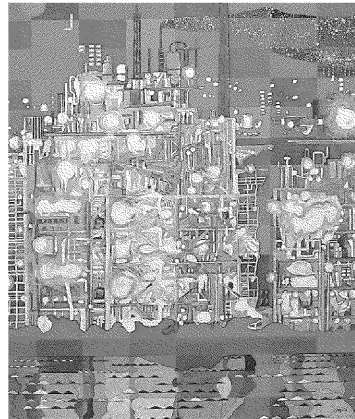
市美展準大賞 平面

〈紅色夜景〉

大川 たつみ

赤色を基調とした何やら抽象的な作品が目飛び込む。若い新進気鋭の作家だろうか、あるいは気の若いベテラン作家だろうか、鮮やかな赤のなかに水色や白・黄・黄緑の派手な明るい色彩が中心一帯を形作っている。切っ掛けになったのは、スパッタリングで形作られた波打った色面が2つの棒の先から出ており、それが煙と煙突であると気づき始めると、それまで抽象的だった色と形が光の粒で形作られた工場の夜景であることが理解できた。ゴッホが〈星降る夜〉で神聖さと誠実さを表現した様に、工場の光で希望や憧憬・矜持が表現されている様に感じた。大賞作と競い部門一位になってもおかしくない秀逸の作品ではあったものの、結果として及ばなかった点としては、ヴァルール(色価)に課題が残った様に思われる。ヴァルールについては詳細に説明しきれないが、彩度・明度を若干調整し、質を高められたらとだけ記しておく。今後の活躍に期待したい。

(原井 輝明)



市美展準大賞 立体  
〈生命〉

楊井 朋子

一見して出品作品の中で同じ作者の2作品が、軽やかで現代的な雰囲気を際立たせていた。プリミティブ（原初的）な生命をテーマとしていることから、すぐさま昨年の市美展大賞受賞者の作品であらうと想像がついた。



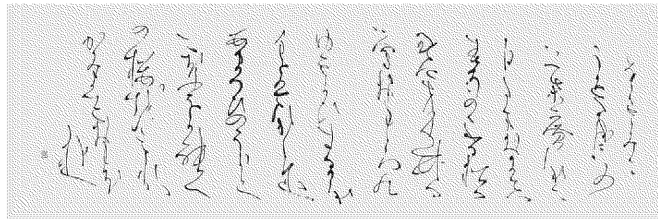
1点は昨年と同様の細胞を思わせる模様が残っているのだが、本作品が素晴らしいのは、昨年の表現を突き抜け、新鮮な驚きを与える全く新たな展開を示していることである。色味をそぎ落とし白色のみの作品とし、紐状の原始的な生命体が連鎖してできたような半球状の有機的な物質が浮遊する様を、澄んだ透明感で表現している。これが陶磁器の技法で作られているというのだから驚かざるを得ない。この複雑で繊細な形をよくも壊さず、成形し、焼成できたものだと技術的な興味も尽きない。しかし陶磁技法だからこそ表現できる清純さと繊細さに作者は懸けているのだろう。それによってこそ生命の根源の姿が、またそこに宿る生命の奇跡や神秘が立ち現れることを信じて。

(高木 茂登)

市美展準大賞 書  
〈なぐさみ〉

河村 定子

今年もたくさんの作品の中で、輝いていました。書き出しを小さめにし、徐々に大きさを加えて盛り上げて行く技法は、鑑賞する者にとって、ドラマを感じさせてくれます。



線の強さは勿論のこと、単体の造形美の現代的センス、変体仮名の大胆なデフォルメは圧巻です。

「書道」は読めないからわからない、とよく言われますが、現在毎日使用しているひらがな、漢字が、このように作品化されたら、何と日本の書道は美しいのでしょうかと思われるに違いありません。

天地、左右の余白、行間、字間の空間が工夫されています。筆の開閉も巧みで大いなるリズムを感じます。紙面に食い込む生きた線は、強く張りつめていますので、まわりの白い空間にも緊張感が漂っているのです。行の終わりの処理の仕方も、軽く、強く、短めに、長めと、余韻が残っています。

日頃からの古典の臨書、そして創作へのチャレンジが生んだ素晴らしい作品です。

(松田 鶴信)

市美展準大賞 写真  
〈学び舎〉

内山 和則

〈学び舎〉は4点の組写真で、校舎の全景、広い教室での先生と生徒1人の授業風景、下駄箱のある出入口の向こうに消えていくような生徒二人の姿、そして雪の積もっている学校の正面に椅子に座って元気いっぱいに笑っている7人の生徒全員の写真。生徒数を除けば誰でもが持っているノスタルジックなカットで構成されているように一見地味に見える作品ですが、実に的確な組写真でそれぞれの写真が互いに響きあっていて作者の思いが伝わってきます。



かつては生徒の声であふれていたであろう立派な校舎、そしてその中で今では先生1人と生徒1人の授業が行われている写真は現代社会が直面している過疎化の現実を強く訴えている。しかし、雪の中での生徒達の笑顔は逆境をものともしない元気にあふれ、絆をより強め、深い連帯感で結びついているように思える。

組写真でなければ表現出来ないストーリー性のある秀作だと思います。

(竹重 満憲)

周南市美術展運営委員会 委員

- 委員長 西崎 博史 (周南文化協会 会長)
- 河村 純一郎 (洋画家)
- 澤田 小恵子 (周南市連合婦人会 会長、徳山女性団体連絡協議会 会長)
- 原田 洋子 (人権擁護委員)
- 藤本 満俊 (陶芸家、周南文化協会陶芸連盟 会長)
- 有田 順一 (周南市美術博物館 館長)

